

# ひょうごの遺跡

兵庫県埋蔵  
文化財情報

平成15年8月22日発行

兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所

〒652-0032

神戸市兵庫区荒田町2-1-5

TEL 078 (531) 7011/FAX 078 (531) 7014

ホームページアドレス

<http://www.hyogo-c.ed.jp/~maibun-bo/>

墳

墓

題

耕地谷古墳群の全景

その1

## 周溝墓

淡路・洲本市の<sup>しもがも</sup>下加茂遺跡では、自然堤防上に  
弥生時代中期の方形・円形周溝墓を見つけました。

その2

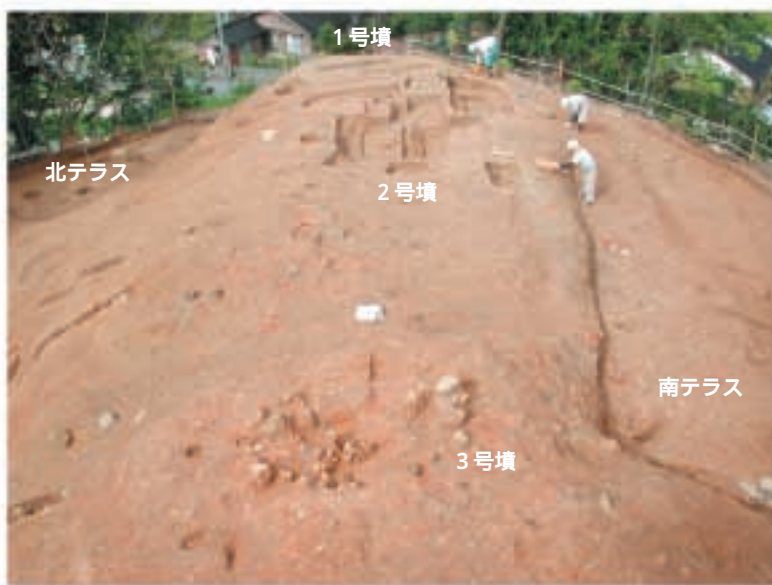
## 台形状の古墳

北但馬・豊岡市の<sup>こうちだに</sup>耕地谷古墳群では、尾根上  
をカットして造る古墳時代前期初め頃の古墳を  
を見つけました。

その3

## 横穴式石室

南但馬・関宮町の<sup>てらじ</sup>寺地古墳では、尾根の先端  
部に土石流に埋もれた古墳時代後期の横穴式石  
室を見つけました。





## 周溝墓

下加茂遺跡は、洲本市街の北を流れる洲本川の左岸に立地しています。今回、市道加茂中央線道路改良工事に伴って、6月より発掘調査を行っています。この調査の結果、次のような発見がありました。

## 速報

## 下加茂遺跡

弥生時代前期の水田と洪水砂に埋もれた中期の周溝墓群

発見!  
その1

## 弥生時代の周溝墓

周溝墓を調査区の西半で発見しました。方形が4基、円形が1基あります。

調査区の中央付近にある3号墓は東西約6m、南北約8mの方形周溝墓です。1号墓と2号墓は方形の一隅しか調査していませんが、3号墓よりもかなり大きく、1号

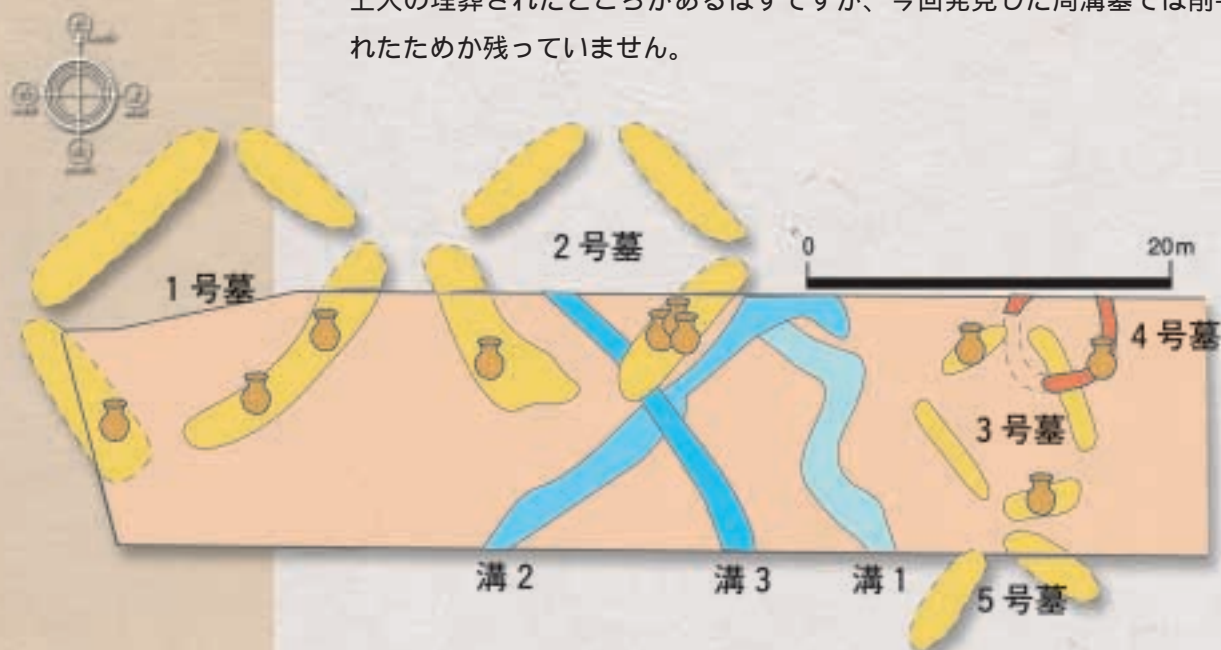


3・4号墓

墓は1辺が10m以上になると想定できます。周溝は全周せず、四隅が途切れています。溝内には細粒のシルト層が薄く堆積し、ほぼ完形の壺や甕・鉢が出土しました。供献儀礼きょうけんぎらいに使用されたものでしょう。

また、1号墓と2号墓は洪水砂で一気に埋まっています。4号墓は径約5mの円形周溝墓で、3号墓の溝が埋まった後に造られています。

出土した土器から、方形周溝墓が弥生時代中期前半（約2200年前）に、円形が中期後半（約2100年前）に造られたと考えられます。なお、墓である以上人の埋葬されたところがあるはずですが、今回発見した周溝墓では削平されたためが残っていません。



## 発見! その2 紀伊型の甕

紀伊型のカメ



2号墓の溝から紀伊地方特有の形をした甕形土器が出土しました。胎土には、結晶片岩という和歌山市周辺で産する石の砂粒が含まれています。

弥生時代中期前半を中心に畿内～播磨、淡路などに運ばれていますが、島内で完形品が見つかったのは初めてのことです。

## 発見! その3 弥生時代前期の水田

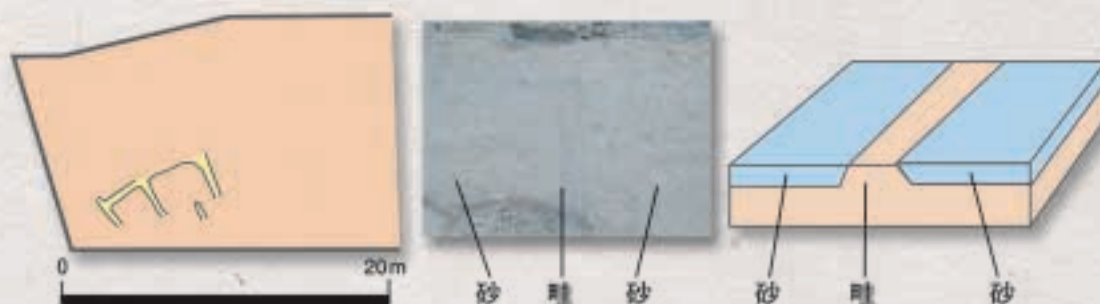
方形周溝墓や溝が発見された地層から、さらに約60cm掘り下げると黒色の粘土層が堆積しています。その上の層で水田を発見しました。土を寄せ集めて低い畦あぜを造り、3～5mの方形に小さく区画にしたものです。

今の水田のようにしっかりとした畦ではないので、あまり良く残っていませんが、調査区南西隅あたりでは、南北方向の畦が4本平行に走っているのがわかります。

弥生時代前期の水田は、西淡町の雨流遺跡うりゅうに次いで、淡路では2例目です。



水田



## まとめ

今回の調査では、弥生時代中期の周溝墓や前期の水田など、当初予想した以上に多くの成果が得られました。

周溝墓には方形と円形があり、方形では規模の大小がみられます。淡路地域でのこの時期の周溝墓は、武山遺跡たけやまに次いで2例目です。群としての発見、そして年代は少し新しくなりますが、円形が混在することに意義が認められます。

なお、住居跡などは発見されませんでした。周溝墓や水田を残したムラの人々は、ここよりも少し高い北側に住居を建てて暮らしていたのでしょうか。

また、下加茂遺跡周辺では、縄文時代～弥生時代の遺跡として東約600mにある武山遺跡がよく知られています。洲本川流域での最初の稲作は、下加茂～武山の一带で開始され、次第に上流へと広がっていったと考えられます。





## その2

### 台形状の古墳



出土した古墳時代初め頃の土器

5月下旬から、道路建設が予定された豊岡市九日市下町の、円山川に向かって西から張り出した尾根上の発掘調査を行ったところ、古墳時代前期初め（今から約1700年前）を中心とする時期の古墳や、「村の城」と考えられる16世紀の城郭遺構を発見しました。

## 速報

# 耕地谷古墳群

尾根上に造られた古墳群と村の城

## 発見! その1

### 古墳群について

耕地谷古墳群は4基の墳丘からなる古墳群です。

古墳といえば、平地に土を盛って前方後円形や円形、方形などの形をつくり、周溝を巡らすものというイメージをお持ちの方が多いでしょう。しかし、但馬地域や京都府丹後地域では、山の尾根筋上に段々に平坦面を造り出してまわりの裾をカットする台形状の古墳が多く見られます。耕地谷古墳群も、このような北近畿特有の特徴を持つ古墳群なのです。

墳頂の平坦面には、複数の主体部（埋葬した部分）が発見されています。特に、2号墳の墳頂では中心に大きな主体部があり、その周囲に中心主体部と一部が重複するように小さな主体部が6基確認できました。大半の主体部は木棺に入れた埋葬をしていますが、中には土器の甕と高杯を組み合わせた土器棺墓もあります。

古墳の副葬品には、鉄器と玉が見つかりました。当時の日本では、鉄製品は大陸からもたらされる貴重品でした。豊岡市をはじめとする北近畿地方では、大陸からの玄関口として豊富に鉄器が流入していたようです。今回出土した鉄器には、弓矢の先につける鉄鏃や木材の表面を削るヤリガンナがあります。



棺内から出土した管玉

1号墳の主体部SX101の被葬者頭部付近から出土しました。碧玉（へきぎょく）という石で丁寧に作られています。

## 発見! その2

### 耕地谷城(仮称)について

今回発見された城には、まだ名前がありません。いまのところ古文書にもその存在は知られていないので、仮に耕地谷城と呼んでおきましょう。

お城は、古墳の頂部を削って造りだした平坦面が2箇所と、その土を敷き延ばし積み上げた盛土部分、古墳の周溝を拡張し利用



棺内から出土した鉄器



甕と高環を使って埋葬した土器棺墓



南側のコの字型にカットされた段状遺構

した堀切、そして、尾根斜面をコの字にカットし前方に土砂を盛りだしてスペースを確保した段状遺構（テラス）と呼ばれる施設が北斜面に1箇所、南斜面で4箇所見つけられました。非常に、コンパクトな城と言えます。

**Q** さて、耕地谷城は、いつ築かれたのでしょうか。

**A** 今回の調査では、段状遺構から土師器皿と瓦質の播鉢が出土しています。皿は京都で作られた皿を模して作った製品です。播鉢は越前焼を模して作られています。これらの土器は16世紀の中頃から後半の年代と考えられます。

**Q** では、誰によって築かれたのでしょうか。

**A** 近年の研究では、戦国時代の戦乱や近隣の村同士の争いに際し、避難のために、或いは防戦するために村々で自衛の城を築くことが明かになってきました。今回発見された耕地谷城のように古文書にその名をとどめず、小規模な堀切や平坦面を持つ城は、『村の城』であった可能性が非常に高いと考えられます。





## 横穴式石室

寺地古墳・寺地遺跡は養父郡関宮町大谷にあります。妙見山（1139m）を最高峰とする山地から延びてきた尾根の先端部に立地し、大変な急斜面を切り開いて営まれています。今回の調査は砂防工事に先立って行ったのですが、この遺跡は何度もおこった山崩れ（土石流）に厚く覆われていることが判りました。当時の人々も、砂防工事を行おうとしている私たちと同じように、山崩れに頭を悩ませていたと思われるかもしれません。



石室の床には石が敷かれていました

速報

# 寺地古墳

土石流に埋もれた古墳



横穴式石室と土師器窯の全景

発見！  
その1

## 奈良時代～鎌倉時代の掘柱建物群と 平安時代末の土師器焼成窯跡

寺地遺跡では奈良時代～鎌倉時代の掘立柱建物群、但馬地方では初めて見つかった平安時代末の土師器窯といった遺構と奈良時代を中心とした須恵器・土師器や土馬が出土するなどの成果がありましたが、今回は寺地古墳について紹介します。



古墳を覆う土石流



副葬された刀と耳環



お供えを盛っていた土器

## 発見! その2 横穴式石室を持つ古墳

寺地古墳は直径約11mのやや歪んだ円墳です。斜面の山側を削り、その土を谷側に盛って墳丘を作っています。埋葬施設は、長さ約6m、最大幅1.65mの横穴式石室です。羨道と玄室の区別が曖昧な無袖式で、入口は西側の細く狭い谷の方に向けて造られていました。一般的に石室の入口は広い平野に向けて造られるのですが、寺地古墳はこの点が特徴といえるでしょう。石室は土石流の影響で、全体に谷側に傾き、上半分が破壊され、内部には土砂が詰まっていました。しかし、土石流に覆われたことで、埋葬当時の状況がよく残っていました。

石室の床には扁平な大型の川原石と小型の角礫が敷きつめられています。扁平な川原石は一定の区画を意識して置かれているようにも見えますが、単位が明瞭ではありません。

敷石の上からは副葬された遺物が出土しました。石室中央の木棺が置かれていたと思われる場所からは、銅芯金貼の耳環2点、長さ約70cmの鉄刀1点・鉄製刀子2点が見つかりました。このほか、赤い顔料（朱）が床に付着した場所があって、赤い色を塗った木製品も納められていたようです。

また、石室の奥壁付近と、羨道と玄室の境界部分の2箇所から供献された土器がまとまって出土しました。奥壁付近には、須恵器の坏身・坏蓋のセットが5組、境界部分では須恵器の有蓋高坏が8組と土師器1点が置かれていました。これらのほとんどは蓋の上に身を置く、あるいは身の上に蓋を裏返して置くという状況で見つかっており、副葬時の状況を示していると思われます。なお、坏身・坏蓋も本来は別々の個体の蓋・身を組み合わせていますし、高杯と組み合わせられているのは坏身・坏蓋で高杯の蓋は用いられていないという不思議な現象が認められます。

## ま と め

出土した須恵器から、寺地古墳は古墳時代後期の6世紀後葉に造ったと考えられます。また、古墳の規模や副葬品の内容から見て、葬られた人は当時の「大谷村の村長」といった身分の人だったと思われます。



県立考古博  
(仮称)  
先行展

只今、好評開催中!!

# 体感! 弥生時代

2000年前の弥生時代の食と自然を体感

期 間  
平成15年  
7月12日(土) ~ 9月7日(日)

時 間  
午前10時~午後6時

場 所  
播磨町郷土資料館

主 催

兵庫県教育委員会・播磨町教育委員会・播磨町郷土資料館

入場  
無料

フォーラム

## 「体感! 弥生時代」

期 日 平成15年8月31日(日)

時 間 午後1時~4時

場 所 播磨町中央公民館 大ホール

講 演 会 『弥生時代への誘い』講師 工 楽 善 通 氏

成果発表会 『大 中 遺 跡 を 掘 る』兵庫県教育委員会職員

座 談 会 『考古楽は楽しい』工楽善通氏、上田哲也氏、浅原重利氏、  
兵庫県教育委員会職員、考古楽倶楽部

編 集 後 記

8月の声と共に夏の暑さが蘇りました。それにしても、長引いた梅雨と言い今年は何か不思議な夏ですね。

遺跡の発掘調査も不順な天候に影響を受けて、遅れ気味です。併せて、『ひょうごの遺跡』も遅れました。

本号は、調査速報として、淡路・下加茂遺跡、北但馬・耕地谷古墳群、南但馬・寺地古墳で見つかった三種類の墳墓を中心に最新の情報をお届けしました。

また、播磨町郷土資料館において、県立考古博(仮称)先行展「体感! 弥生時代」、隣接地の国指定史跡「大 中 遺 跡」では発掘調査も行っています。ぜひお訪ねください。

(S.O)